

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【指扇中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>各科目の領域ごとに、知識・技能の定着率の偏りがみられる。 <指導上の課題>授業内で知識・技能を定着させる支援が不十分でない。また、在籍する生徒の約半数が、十分に家庭学習を計画的に取り組めていない。	⇒ デジタル教科書やスタディサプリ等を活用する際、生徒のつまづきを机間指導等を通じて把握し、習得につながる支援・助言を行う。また、補助名簿等を活用し、生徒のつまづきを記録することで、上記の支援・助言につなげる。【R6年度さいたま市学習状況調査の教科の調査項目において、各教科の領域ごとの標準偏差が25pt以下】
思考・判断・表現	<学習上の課題>与えられた情報から判断して考察したり、自身の考えを記述で表現したりすることが課題である。 <指導上の課題>生徒同士の考えを共有したり、議論したりすることで考えを深めるための指導が不十分ではない。	⇒ 授業内の生徒同士の協働的な活動を重視し、ICTを活用して考えを共有したり、それを基に議論したりする。【毎回実施】また、個人の意見に対してICT等を活用し、形成的評価を行う。【R6年度さいたま市学習状況調査の教科の調査項目において、各教科で表現力の差が5pt以上】

⑤	評価(※)	調査結果の授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の平均正答率は昨年度と比べて低く、特に「情報の扱い方に関する事項」では全国平均値と比べて約5pt低い結果となった。数学の平均正答率は昨年度と比べてやや高かったものの、データの活用に関する問については全国平均値と比べて約7pt低かった。以上のことからデータや情報リテラシーについて課題があることが分かる。授業改善策を積極的に実施していくことで、教科横断的に身に付けていく。	
思考・判断・表現	国語では「文章と図の結び付け」や「必要な情報に着目する」を問う問題の正答率は全体から見ると低い結果となっている。数学では「筋道を立てて証明する力」を問う問題については全国平均値よりも高い正答率を保ったものの、知識・技能と同じくデータの活用で「データの分布の傾向を読み取る力」に課題が見られた。以上のことから、知識・技能で示した内容と同様にデータや情報リテラシーについて課題があることが分かる。	

①結果分析(管理職・学年主任等)  
②詳細分析(学年・教科担当)  
③分析共有(児童生徒の実態把握)  
職員会議・校内研修等

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	学びの指標アンケート結果では、基礎的スキルの平均値は市平均とほぼ等しい値であり、基礎的スキルの項目の中で最も高い平均値だったのは「基本的な内容をわかりやすく教えてくれる」項目であった。生徒の様子やつまづきの予兆を把握して、指導につなげることができている。今後は、よりデータや情報リテラシーを向上させるような場面で、より意識を高めていく。	変更なし
思考・判断・表現	B	学びの指標アンケート結果では、主体的な学びに関する項目の平均値が市平均をやや上回ったものの、探究的な学びに関する項目では市平均をやや下回った。「友だちの考えと自分の考えを比較している」項目では肯定的な解答が多い傾向が見られることから、協働的な活動を実施し、学びにつなげることができている。自他の考えを理解・表現するなど、協働的な学びを通じてデータや情報リテラシーを向上させるよう意識していく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)